

第4回檜葉町放射線健康管理委員会議事録

○開催日時：平成28年2月29日（月）午前10時30分～12時

○開催場所：檜葉町役場 大会議室

○出席者：別紙出席者名簿参照

○内容：式次第に添って進行

進行者：松本住民福祉課長

開 会	
1. 町長挨拶	松本幸英町長が挨拶（あいさつを記述）
2. 委員等の紹介	
3. 議事	<p>(1) 今年度の取り組みの報告</p> <p>○平成27年度 夏期+秋冬期 檜葉町 D shuttle 結果解析について、宮崎委員から説明。 （資料1参照）</p> <p>○健康管理手帳「ならは帳（仮称）」について、住民福祉課から説明。</p> <p>○檜葉町における相談員体制の変更について、復興推進課から説明。 （資料3参照）</p> <p>(2) 今年度の実績と来年度の計画について、住民福祉課及び放射線対策課から説明。 （資料4参照）</p> <p>(3) 来年度の檜葉町放射線健康管理委員会について</p>
4. その他	
閉 会	

檜葉町長ごあいさつ

○松本町長

皆様大変お忙しい中、檜葉町放射線健康管理委員会にご臨席賜りまして誠にありがとうございます。さて、檜葉町は昨年9月5日に避難指示が解除され間もなく半年が経過しようとしております。町内に目を配りますといたるところで帰還にむけての準備を目にするところになってきてございまして、生活環境面におきまして1日200トンの災害廃棄物を減容化処理できる仮設焼却施設の建設が始まり、町内の廃棄物仮置き場の回収に向けての取り組みが着実に進んでいるところでございます。またかねてより、多くの町民が心待ちされていた県立の診療所双葉リカーレが開所して町内の医療環境が格段に向上したことや、震災以降初めて町内で成人式を開催するなど明るい話題と共に元気な檜葉町を発信しているところでございます。さて、間もなく福島第一原発事故より5年が経過しようとしております。町では復興に向けた取り組みを確実に進め、今年1月に改定した町の復興計画において町民の帰町目標を平成29年春と明示させていただきました。一方で長期にわたる避難生活により避難先での生活基盤が確立していることや、さらには依然として原発を始め放射線に対する不安などにより故郷での生活に対して躊躇されている住人もいることも確かでございます。町としましては引き続き不安をお持ちの住民に対し正確な情報を発信するとともに、これまで以上に町民の健康を第一に考え安心安全な環境づくり、暮らしてみたい街づくりに取り組み、一人でも多くの方々が故郷檜葉町での生活を再開できるよう支援してまいりたいと考えております。結びになりますが、本日は過去3回の委員会においていただきました多くのご助言、そしてご提案を総括する意味も踏まえ、より活発なご議論を賜りますようお願い申し上げます。

議 事

(1) 今年度の取り組みの報告

◆資料1「平成27年度 夏期+秋冬期 檜葉町D shuttle 結果解析」を宮崎委員から説明。

○秋光委員

国で示す年間追加積算線量を1mSvに抑えるとは、外部だけでなく内部も含めてだと思いが、このデータは外部だけで内部は記載されていないという理解でよろしいか。

○宮崎委員

資料はあくまでも外部被ばくの実測結果であり内部被ばくは含んでいない。檜葉町でもホールボディーカウンターが導入されているので、個別に説明する際にホールボディーカウンターの結果を合わせてデータを作成することは可能。その場合、Dシャトルを携行している方がホールボディーカウンターを受けていてそれを突合せさせることが必要になる。

○開沼副委員長

住民へ説明したときにこういったアクションがあるか、住民にこのような知識をつけて

もらう上で、どういったことが必要と感じているか。

○宮崎委員

内容の説明をしないで結果だけ返却して理解いただくのは困難なため、この機械で何を測っているのかを一度は対面で説明をする必要があると考えている。それぞれご自身が居住する区域での放射線量のイメージは持っているが、イメージの持ち方がまちまちのため、直接本人とお会いして、線量が低いと思っているのか高いと思っているのかという印象からコミュニケーションをスタートする事が必要。ご自分が持った結果で考えるというインタラクティブな方法であり、他人のデータでない所が興味を持っていただける最大のポイント。研究目的で同意を受けて GPS とともに線量計を持った内容が論文化されているものはあるが、手間がかかり多くの人数へのサービスにはならないため、このような方法で市町村単位での公表に繋がった事例はない。檜葉町の場合、町の取り組みとしても徐々にゆっくりと拡大してきている。数字だけ積み重ねても理解されるのは難しい。しっかりと結果についての解説を加えながら現実には何が見えているかを直接対面で説明していく事が必要。

議 事

(1) 今年度の取り組みの報告

◆資料2「健康管理手帳「ならは帳（仮称）」について」を説明。

○放射線対策課 青木課長

45 ページの水道水に関する記述は、放射線健康影響に対する取り組みではなくて、83 ページに移して欲しい。50 ページの個人線量は外部被ばく線量と記載した方が良い。

○住民福祉課 玉根係長

45 ページの水道水の記述は、83 ページに移動する。外部被ばく線量の記載も検討する。

○高村委員

非常にいい内容。配布は全町民対象か？

○住民福祉課 玉根係長

配布は 20 歳以上が対象。内容は成人向け。

○高村委員

県民健康調査の甲状腺の結果をお伝えするのは、現時点で若い人がほとんどある。この世代では、そのほかのところは健診の結果も含めてどのように記載するのか？

○住民福祉課 玉根係長

今回の手帳は、生活習慣病など成人向けの情報や健康記録が多いため、20 歳以上としまし

た。また、県の方の県民健康手帳もありますので20歳以下は、そちらを活用してもらいたいと考えております。

○高村委員

そういう目的が明確になっているのであれば問題ないかと思えます。

○大平委員長

川内村では配布しているのか？

○高村委員

配布していない。

○秋光委員

ホールボディー検査結果の記載欄にセシウム134、137とあるが、住民に分けた数字が伝わっているのか。

○住民福祉課 玉根係長

伝わっている。

議 事

(1) 今年度の取り組みの報告

◆資料3「檜葉町における相談員体制の変更について」を説明。

○宮崎委員

保健師さんなどにDシャトル貸し出しの仲介をしていただくこともありえる。私が直接住民とやり取りするだけではなく、住民と常に関わりのある保健師さんや相談員さんに座談会に来ていただいたり、皆さんが集まってDシャトルがどう使われているかなどを共有していく場があったりすると良い。資料では、被災者支援調整会議や報告・助言という流れが示されているが、可能なら個別に簡単な対応ができるぐらいの知識共有を行っていただくのが理想。

○復興推進課 岡田

新しい相談員が増えるので、4月にはDシャトルの使い方などに関する研修を行う。相談会を開く際を始め、様々な機会に参加を促していく。

議 事

(2) 今年度の実績と来年度の計画について

◆資料4「本年度の放射線健康管理体制にかかる実績と来年度の計画について」を説明。

○大平委員長

まずは、①の町の放射線健康管理体制のあり方について。次年度にホールボディーカウン

ター検査後の相談体制の充実を図ると加えられているが、具体的にどのようなことを考えているのか。相談を受けた人数は。

○住民福祉課 玉根係長

現在は、当日相談は受けず結果だけお返ししている。私どもから県に結果を送り、日本原子力開発機構のコールセンターや原子力研究所の相談窓口のお知らせを同封して返送する。本人が心配であれば連絡してもらおう。相談件数は把握していない。

○大平委員長

検出されなければ相談もないだろうが、それとは別に相談が多いのかだけは把握した方がよい。あとは検出限界値を超えた方をどうするか。田村市や川内村でホールボディーカウンターで検出限界値を超えた方に何かされているか。

○宮崎委員

伊達市は人口が55,000程度。うち小中学生は4,500人検査を受けている。希望者ベースで子供も含めて延べ人数で約6,000件。およそ10%弱がホールボディーカウンターを受診。うち、値が出る方は50名弱ぐらいで、約1%程度。市がまとめて病院に検査を委託しており、数字が出るとその場で直接コミュニケーションがされる。その経緯については簡単にご報告いただくという形。檜葉町の現状では、数字が出る方はほとんどいらっしゃらない。数字が出たらどんな具合だったか、町からワンタッチしても良いのではないか。それを決めておいて、数字が出たときに本人がどういう生活をされていたのか声掛けをする。

○大平委員長

町の保健師さんがワンタッチするということで良いか？

○宮崎委員

町の保健師さんで良いのではないか。

○大平委員長

町の保健師さんがワンタッチするということで良いか？

○宮崎委員

町の保健師さんで良い。

○大平委員長

人数的に多くなければ個別の対応が可能ということですね。

○宮崎委員

川内村はいかがですか。

○高村委員

川内村は全てひらた中央病院へ委託しています。役場で対応することはないのではないかと。

○大平委員長

甲状腺、個人線量計、その他についていかがでしょうか。

甲状腺検査で、全くの未受診者が受診された場合、連絡は県民健康調査にはいかないのか？

○住民福祉課 玉根係長

県の登録機関であれば報告が行くが、ひらた中央病院は違うので連絡はいかない。

○大平委員長

せっかく受診したにもかかわらず、県のデータでは未受診となってしまう。県民健康調査の甲状腺検査の18歳以上の受診率はどんどん下がっている。73%とあるが、18歳以上にすると受診率は下がると思う。そうすると今後ターゲットとなるのは18歳以上の受診率を今後どうやってあげるかになる。檜葉町のようにひらた中央病院に依頼していつでも受診できれば受診率は上がる可能性があり、そのデータは重要。ほとんどが県民健康調査登録の医療機関となっていると思うが、県下で独自にやっているのはひらた中央病院だけか？

○住民福祉課 玉根係長

ひらた中央病院だけと思う。他の8カ町村も契約されていると考える。

○大平委員長

ほとんどのところが契約されているので、何とかここを甲状腺の委員会でも検討していかないといけない。県の問題として私も持ち帰りたい。

○大平委員長

町民の放射線不安の把握と対応に関する次年度計画でコメント等あればお願いします。

○秋光委員

28年度に相談員を増員するということですが何名から何名に増員予定ですか。

○住民福祉課 玉根係長

確定ではないが今の所合計で21名だと思います。

○大平委員長

帰町されている方は増えているか？以前5%と聞いたが、毎月把握しているのか。

○住民福祉課 玉根係長

6%です。

○大平委員長

平成29年4月までどれくらい増えていくかという今後の見通しはあるのか。

○復興推進課 猪狩課長

もうすでに戻っている方と戻りたいという方と、条件が整えば戻りたいという方と分けてアンケートを採っている。迷っていた方が減って、戻る方と戻らない方に分かれる。子を

持つ親は様々なケースで悩んでいるが、放射線に対する不安があるので、28年度の取り組みの中に乳幼児親対象の個別相談会、座談会があったが、小中学生の親などに対しても、取り組めないかと考えている

○大平委員長

小中学校のPTA向けの講演会などは、これまでやられているのか。

○住民福祉課 松本課長

学校の授業で放射線に対する正しい知識を学ぶというところはあるが、檜葉町の現状を説明するというのはまだない。

○大平委員長

子どもの授業などは実施されているが、親も含めて授業を聞いてもらう方が良い。そういうものは今後取り組む予定はあるか。

○秋光委員

復興推進委員会でも、復興推進計画第二次改訂版など新しくできたものを小中学校の授業等で広めてほしいという意見があった。

○大平委員長

子どもだけでなく、親も一緒に聞ける機会があれば良い。

○住民福祉課 玉根係長

子どもには放射線教育計画があり、小中学校で時間をとって実施している。平成23、24年頃はPTAに対して講演会などを実施していたが、最近は実施していない。

○大平委員長

講演会となるとなかなか来ないので、授業見学のような形式であれば、今まで興味がなかった親にも一緒に聞いてもらえるのではないか。

○大平委員長

情報発信方法で広報誌、イベント等とあるが、それ以外に情報発信等アイデアがあれば。

○開沼副委員長

グラフや表にして発信いただいたほうが良い。結局、空間線量も甲状腺、ホールボディカウンター、水道水もシンプルに言えばほぼ放射線量は出ない。住民がわかるようにシンプルに出せば良い。例えば線量計でも1mSv超えは3%であるなど。線量が出た魚が1万分の3とか、2%という形で伝えるやり方があるのではないか。どういう形か検討の余地があると思うが、よりわかりやすい形を出していけば良いのではないか。

○大平委員長

広報にも最後のページに情報が載っていますが、数字だけ並んでいても見ないだろう。むしろ、広報ならはの最初に図やグラフで発信していく必要があると思う。具体的に何か取

り組み方法をご存知の方は。

○放射線対策課 青木課長

この委員会の報告という形でお知らせするのも必要か。また、年間推測追加被ばく線量 1mSv 以下が 97%というのは特に意識はしないだろうが、1mSv 超えた方がどうかという不安は大きい。1mSv が安全の基準という解釈など、専門家の注釈やコメント付きで進めていくのも良い。

○宮崎委員

直接お話しするとそんなに難しいことではないが、個人線量計 3000 台で 3%という数字の中には、その方々がどこで何をしていたかが見えるデータはなく、大部分の方はいわきで測定された数値でもあろう。個別相談の手法を使うのは、話を聞きに来ていただくという手間はあがるが、コミュニケーションをとって、来た方に理解を深めていただくことが大きな目的。

○大平委員長

資料 1 で説明のあった、D シャトルの結果を広報紙等で示すのは難しいということか。

○宮崎委員

先に、一度仕組みを聞いていただきたい。文書ではなかなか説明しづらい部分がある。

○大平委員長

インタビュー形式とか。宮崎先生に聞いてみましたシリーズのようなのはどうか。どうしても町民の目に留まるような記事があればと思う。

○開沼副委員長

細かくディテールを出すのと、大枠で出すのは両方必要。大枠をつかんでいただくという意味では、例えば県の統計でも端的にまとめて出しているものがある。今の櫛葉の状況を Q&A という形で出すと、一般の方も入ってくるのではないか。

○大平委員長

QA 方式でも、地道に活動いただいている宮崎先生に答えていただくと言った方が良いと感じる。他に情報発信についてございますか。

○宮崎委員

理想ですが環境や個人の測定に自主的に取り組む活動があると良いのでは。住民を行政がサポートする。伊達市では住民に委託をして測定を行っている。

○大平委員長

具体的なターゲットはあるか。町民からといってもある程度最初に火をつけることが必要。

○宮崎委員

自分が知りたいこととか、これが心配だということに取り組んでいただくとか。空間線量測定など。行政がやったものを見せるよりも自分達で計測したほうが良く把握できる。某所では学校の先生が直接子どもの D シャトル測定の結果を取り扱っている事例がある。先生からは、最初は手間だが、やって良かったという感想をいただいた。自分たち自身のデータを扱うという感覚があると、解釈と理解が格段に進む。こちら側がデータを取得し呈示する形だとなかなか見えないものが、自分で扱って誰かに見せるという責任のもとで扱うと、興味を持つことが出来て良かったということである。今すぐは無理だがそういうことをやっていかないと難しい。

○大平委員長

具体的なターゲットはあるか。町民からといってもある程度最初に火をつけることが必要。

○大平委員長

来年度も、不安に関する聞き取り調査のようなアンケートを仮設住宅で採るのか。

○住民福祉課 玉根係長

健診の時にアンケートを採る。

○住民福祉課 玉根係長

データ公表は、ある程度の数がそろわないと難しい。D シャトルを使っている川内村の情報発信はどのようにやられているのか。

○高村委員

D シャトルは数が少なくなかなか難しいが、正直に出すしかない。人口が少なく、地区によっては数十人のデータしか集まらないため、そのまま匿名化して出している。

○住民福祉課 玉根係長

十数名のデータでも公表に値するということか。

○高村委員

然り、対象が十数名しかいない。

○大平委員長

対象が十数名なので十数名のデータで十分だという話。あとはその十数名のデータがどれだけ全体を代表しているかというところ。偏った人たちでないデータであれば大丈夫だと考える。D シャトルは行動を把握するので町の滞在時間もわかるはず。そういう意味では精度が高く、そのデータは十数名であろうが良いデータである。それこそ千名のバッチデータよりも、D シャトルの十数名のデータの方が櫛葉に行っている時間を測定しているので、十分公表に耐えうるだろう。

○宮崎委員

実際それを目指している。3年近くD シャトルに関わってきた中で、ちゃんと自信を持って全体像を示せるデータを得る必要性も感じてきた。自分自身が持って共に動いたD シャトル

ルで測っていただいている。それで個人に説明ができる。同意を得るなど細かな手間はかかるが、全体像だけで「測りました」というより良い。全体像を得ることと個人にもきちりと説明するということを両立するのはこれまで難しかったが、檜葉では先に進みつつある。数の少なさよりは質を担保することかなと考える。

○大平委員長

あとはもっと多くの人数に体験していただくのが良い。また、データを皆さんにわかりやすい形で示していただくと良い。

○大平委員長

タブレットも情報発信で使っているのか。

○復興推進課 猪狩課長

今は使っているが、最終的にはスマホに切り替える。

○住民福祉課 松本課長

年配の方が見ていると聞いている。

○住民福祉課 松本課長

広報の仕方として相談員が受けた事例を、先生方、専門家の方が答える Q&A の形にして公表するのも良いのではないか。

○大平委員長

匿名化して、実際こういう相談があったというイメージか。広報紙か、他のツールか。

○住民福祉課 松本課長

そこはまだ考えていないが、ひとつひとつ身近な問題としてみんなでわかりやすいような方法を探りたい。

○大平委員長

数値よりは具体例が良いのでは。例えば広告でも、〇〇が良いという場合、〇〇で何人中何パーセントが良いと言ったというよりも、〇〇で私はこんなにも元気になったという方が売れる。エビデンスはしっかり出さないといけないが、そういうアプローチも大事。

議 事

(3) 来年度の檜葉町放射線健康管理委員会について

○住民福祉課 玉根係長

来年度は2回の開催を想定。中間ぐらいに今年度実施した内容の報告と、3月に下半期の総括ということで一年間の活動を報告する。

○大平委員長

メンバーは？

○住民福祉課 玉根係長

そのままです。

○秋光委員

来年度、開催までに活動する中で、住民の声、特に相談員が聞き取る声が蓄積していくと思うので、こういった悩み、特に放射線に関わる声について、このような傾向の相談があるとか、あるいは年を追うごとに変わった様子があれば教えてもらい議論できる。

○秋光委員

クローズとすれば、少し立ち入ったような内容も出せるのではないか。

○大平委員長

具体的にこれまでそのような相談内容のまとめはされているのか。

○住民福祉課 玉根係長

いわきの仮設についてはアンケート方式で数字として出している。一方で、借り上げや会津方面は、アンケートではないがある程度分けることはできる。今後、生活再建の相談を進めて行くうえで、いままでのアンケートを個別整理してから相談を進めようと考えている。放射線に関しては圧倒的に水の問題が多い。本年度は、相談員にどのような安全対策が取られているかをダムの見学などで知って貰った。実際見ると安心だという感想もあった。地道だが、相談員が住民の方の問題を吸い上げて返すほうが、むしろ専門家が話をするより納得する場合もある。

○大平委員長

見学は今後も計画するのか。

○住民福祉課 玉根係長

必要に応じてやっていく。保健師も実際水に関しての知識がなかったので、見学に行くことで理解が深まった。

○大平委員長

相談員を 21 名に増員されるが、1 回はご自分の目で確かめたほうが良い。

○住民福祉課 玉根係長

最近水の問題があまり出てこなくなったが、逆に心配になるところはある。

○秋光委員

そういうところは相談員の聞き取りの中できみ取っていけるのではないか。

○大平委員長

声を出す方が見学に行き納得して出なくなったというパターンもあるかもしれない。

○高村委員

次年度に用意していただきたいデータとして、広報 29 ページの自家消費食品等の放射能簡易検査結果がある。ここには 12 月のデータのみで、数として少ないが、おそらく今後このデータ蓄積されていくと思うので紹介していただきたい。おそらく戻り始めると水よりも

自家消費野菜など自分で採ってきたものなどに関心が移る。水はトーンダウンするだろう。それに合わせるためにこういう情報があった方が良い。もう一つ、川内村でもやっているが、このようなデータは種毎に円グラフで出したほうがいい。そうすると山菜が多いとかイノシシはほぼ出るとかが一目でわかる。表でNDが並んでいると伝わりづらい。川内では地区ごとに出している。もう一つ、帰町率、年齢構成、性別構成等も知りたい。

まとめ

○大平委員長

本日は今年度の取り組みの報告、それから次年度の計画等の報告をいただきました。特に次年度の計画では、相談員が増加するという点でその教育などが大事になる。食べ物が注目されはじめると、ホールボディーカウンターは受けていただく方が増えると安心感を高めるという点と、きちっと把握できるという点では良いと思う。ぜひホールボディーカウンターがどれぐらいの実施率になるのか報告いただきたい。さらに相談内容、それから食品の検査内容の公表結果、帰町率、年齢構成等、次回に報告をお願いします。

○住民福祉課 松本課長

次回は別途ご連絡させていただきます。

本日はありがとうございました。

<以上>